

お客様各位

■□=====

株式会社 京浜予防医学研究所

■□ KMLメールニュース □■ ◆◆ VOL.35 ◆◆

=====□■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！

2011年 1月 22日発行

□■ http://www.kml-net.co.jp/

新年明けましておめでとう御座います。旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しく御願ひ申し上げます。

KMLメールニュースVOL.35をお送り致します。
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の一助として頂ければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】 2011年スギ花粉情報
～首都圏は大飛散が予想されています！～
- 【2】 感染症トピックス：結核にご注意を！！
- 【3】 検査項目情報：ノロウイルス迅速検査
- 【4】 学術研究発表：子宮頸部細胞診ベセスダ判定の追跡調査
- 【5】 KMLインフォメーション 11月～12月分のお知らせ

「 1 」 2011年スギ花粉情報
～首都圏は大飛散が予想されています！～

- 花粉飛散量予想
スギ花粉の飛散量は、前年夏の天候(日照時間、最高気温、降水量)に関連すると言われております。2010年の夏は記録的な猛暑で日照時間が長かったため花芽の生育が良く、2011年春の花粉飛散量は多くなりそうです。
また、過去2年以上続いて飛散量が多いケースは少なく、逆に少ない年の翌年は飛散量が多い傾向があります。2010年のシーズンはスギ花粉の飛散が全国的に少なかったため、2011年は多くなる年でもあります。
首都圏においては、ヒノキ花粉の飛散も多い予想から2010年と比べると3～5倍の飛散量となる見込みです。
- スギ花粉飛散開始日
当初、寒さが厳しい予報から例年より遅い予想でしたが、直近の予想では平年並みかやや早いようです。
- スギだけが原因とは限りません
春の花粉症の原因アレルゲンといえば、スギの花粉がよく知られております。
しかし、スギの花粉以外にもヒノキやハンノキなども花粉症の原因アレルゲンになり、この季節の花粉症の原因はさまざまです。
また、花粉症時期には目鼻が敏感になりますので、年間を通じて存在するダニやペット、ゴキブリなどの通年性アレルゲンにも注意が必要です。
花粉症など、アレルギー性鼻炎の治療は、アレルゲンの除去と回避、薬物療法、特異的免疫療法、手術療法に分けられます。中でもアレルゲンの除去と回避は、アレルギー性鼻炎の治療の基本とされています。
症状がひどくなる前に適切な診断を受け、原因アレルゲンを除去回避することが重要です。

お勧めセット：スクリーニング（鼻炎喘息） セットコード247

< セット内容 >

ダニ1、ハウスダスト1、動物上皮、カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス、ゴキブリ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ガ、IgE RIST

2 感染症トピックス：結核にご注意を！！

●結核看護師、レントゲン撮らずに虚偽報告
県立中央病院（富山市西長江、飯田博行院長）で女性看護師が結核を発病していたことが今年9月に発覚した問題で、看護師が8月上旬、胸部レントゲン検査をしていないのに、異常がなかったとする虚偽の報告書を出していたことがわかった。

また、同病院で2003年に男性検査技師が結核を発病していたことも判明。いずれも病院側は、看護師の発病を発表した9月の記者会見前に把握していたものの、公表していなかった。9日の県議会厚生環境委員会で大野久芳委員（自民）の質問に、県側が答えた。

県医務課などによると、看護師は今年8月に県外でがん研修を受けるため、胸部のレントゲン撮影とその結果を示した報告書が必要だったが、実際には撮影せずに、研修先に虚偽の報告書を提出。
看護師は7月下旬に定期健診を受け、8月24日に出的結果で発病の疑いが判明している。同委員会でも、県側は「検査を受けていれば、（定期健診結果）より早く異常が分かった可能性がある」と陳謝。自宅で療養中の看護師から事情を聞き、処分を検討している。

2010年12月10日 読売新聞

コード	検査項目	実施料	判断料	所要日数
0 2 9	蛍光法（塗抹）	42点	微生物	2日
0 3 0	チールネルゼン（塗抹）	40点	微生物	2日
0 3 1	培養（小川培養法）	180点	微生物	4～8週
5 4 1	PCR-TB	410点	微生物	4～6日
5 4 2	PCR-AVI・INT	430点	微生物	4～6日

3 検査項目情報：ノロウイルス迅速検査

感染性胃腸炎の原因として、細菌、ウイルス、寄生虫などさまざまですが、その中でも、ノロウイルスによる病気の頻度が高く、かつ容易に感染していきまします。ノロウイルスについて説明していきます。

1. ノロウイルス感染症の潜伏期間と症状
感染から発症までの潜伏期間は24～48時間です。つまり食事が原因だった場合は、発症する直前の食事のせいではなく、前日または吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状はいきなり起ころうという感じが触れます。突然お腹からこみ上げて吐いてしまうことが多いです。トイレにいて、10回以上吐いていましたという話を聞くと、もともと気持ち悪くて横になれず、吐き気が無治まったり、さらには熱が1～2日続いた後で治癒し、後遺症もあり通まらせん。ただ、感染してくる患者さんのほとんどは、軽いや重症ではない場合、軽い風邪のよう症状の場合もあります。

2. ノロウイルス感染症の感染経路
ノロウイルスの感染経路はほとんどが食べ物や食器などからの経口感染で、次のような感染の流れがあると考えられています。

(1) 飲食物からの感染

ウイルスを溜め込んだ食材、よく言われるのはカキやアサリ、ルシミなどの二枚貝などです。これらは、井戸水などが汚染されているお水が、最近井戸水を飲む家庭で使用しているお水が、衛生管理が重要になってきます。

